

平成 25 年からの西之島沖噴火による新たな陸地の形成・拡大について (第八報)

平成 25 年 11 月 20 日に西之島の南東約 500m の海上で新島の形成が確認され、その後も噴火は継続し、西之島と一体となり島の面積は拡大を続けている。

平成 27 年 7 月 28 日に UAV で撮影した空中写真を判読して地形判読図を作成した。地形判読により判明したことは以下のとおりである。

1. 溶岩流の噴出による島の拡大

主火砕丘 (C1) 北東から溶岩が噴出し、溶岩流は西方、北東方、南東方へ流下した。南東方に流下した溶岩の量が最も多く、南東方向に島が拡大した。

2. 小火砕丘の形成

主火砕丘 (C1) 北東の火口は、7 月 28 日現在活動を停止しているが、溶岩流噴出後に小火砕丘 (C2) を形成している。

3. 主火砕丘の成長の鈍化

主火砕丘 (C1) は、平成 27 年 3 月 1 日時点と比較してあまり大きさが変わっていないが、山頂には複数の火口が形成されている。また、地表面に硫黄等が生成されて、黄色から白色の変色域が広がっている。

4. 溶岩流先端の侵食と砂州の形成による滑らかな海岸線の形成

溶岩流先端が波浪により侵食され、湾入部に溶岩片等が堆積して砂州 (S) が形成されている。その結果、新たな溶岩流が海に流入している場所を除いて、滑らかな海岸線が形成されている。